

# 遠隔栽培指導センタ(通称:コックピット)の開設

リアルタイムでの遠隔栽培指導の確立をめざして

## 実訪問に近い栽培指導が可能な「コックピット」

全農 高度施設園芸推進室は、平成26年から「ゆめファーム全農プロジェクト」を開始し、全農自ら環境制御技術などの最先端技術を導入した高軒高・高機能ハウスを設置し、安定・多収栽培技術の実証に取り組んでいます。栃木県のトマト、佐賀県のキュウリでは既に目標収量を達成、高知県のナスも令和3年夏に達成見込みとなっており、「実証」から「普及」へ取り組みを加速しています(図1)。

「ゆめファーム全農プロジェクト」において実証された栽培ノウハウを導入したいという要望に応えるため、平成28年から施設園芸生産者向けに、現地訪問による栽培指導を行っています。それを補完する手段として、環境や生育調査データを生産者から電子メールなどで受け取り、遠隔での助言や支援を実施しています。

しかしながら、実際の作物状態をはじめ、圃場の状況などを考慮したリアルタイムな情報共有ができない



図2 遠隔栽培指導イメージ

という課題を抱えています。また、栽培技術者の不足により、すべての要望にお応えできていないこと、さらにはコロナ禍により訪問そのものが制限されていることから、遠隔での栽培指導を早急に拡充する必要があると考えています。

そこで、全農では、ICT分野で強みを持つ東日本電信電話(株)(以下、NTT東日本)と連携し、スマートデバイス\*を用いて、施設園芸生産者とリアルタイムで圃場の映像、音声、環境や生育調査データを共有する遠隔栽培指導センタ(以下、コックピット)を整備し、実証を開始します(図2)。コックピットを活用することで「生産現場とリアルタイムに情報を共有」し、「実訪問と近い精度」で、また「コロナ禍においても安全・

安心」な遠隔栽培指導を可能にし、より多くの生産者の要望に応えることをめざします。

## 「ゆめファーム全農」で操作性や機能を検証

この実証は、全農、NTT東日本に加え農業ICT分野での専門性を持つパートナー企業(株)NTTアグリテクノロジー)と連携して進めていきます。

まず、全農の栽培実証施設である「ゆめファーム全農」3圃場(栃木、高知、佐賀)を活用し、コックピットの検証を行います。具体的には、コックピットと「ゆめファーム全農」の各拠点スマートデバイスをつなぎ、スマートデバイスおよびアプリケーションの機能や操作性を確認します。さらに、遠隔栽培指導をより効果的・効率的にするために必要な機能について検討します。その後、令和3年秋に実際の施設園芸生産者向けに実証を開始、全農グリーンリソース(株)の施設園芸栽培コンサルサービスとしての展開を視野に実用化を検討します。

【全農 耕種総合対策部 高度施設園芸推進室】

\*：通信機能を有した小型情報機器の総称(例 スマートフォン、タブレット端末、スマートウォッチ、スマートグラスなど)

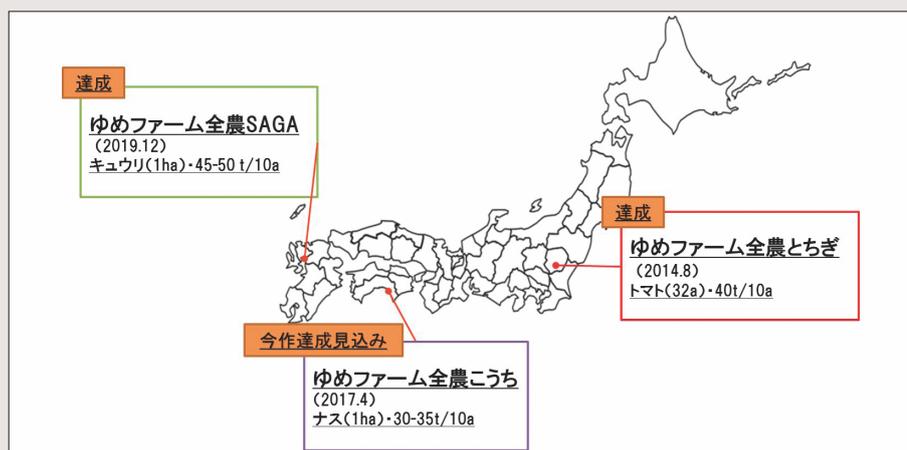


図1 「ゆめファーム全農」の状況(数字は目標収量)